

教材名	友の命	教科書	東京書籍	学年	5年
内容項目	友情、信頼	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。			
内容項目のとらえ方 (子どもの実態を踏まえ)	文学作品を使って「友情、信頼」を教えようとする教材。友情のために命をかけるという設定は、不自然さとともに、だれかのために命を捧げるという「美德」を刷り込むようで不安。ここでは物語をパロディにして友情を考えてみる。				
授業の展開 ★「文学作品」の扱いはp11に見解を書いています。これはひとつの試案です。					
子どもたちの活動			指導上の留意点		
今日の道徳は「名探偵講座」です。今日の講座のテキストはこの物語です。さあ、読んでみよう。					
1. 物語の内容をしっかりとつかむ。			1. 先生が声をだしてゆっくり読んでいく。		
さて、今読んで中で、「変だな？」と思うところはなかったかな？「なんか変だな」って思うことが。名探偵の道の第一歩だ。私が「変だな」と思ったところは次の5点だ・・・					
2. 疑問点について考える。					
疑問1. 「正直者のビシアスが、この王様にくまれて、とうとう、首を切られることになりました。」					
①ビシアスは本当に悪いことをしてつかまったのだろうか？（無実の罪ではないか？）					
②ビシアスは心の中では、無実の罪をはらして、自由になりたい！と思っているのではないだろうか？					
①、② の間に対する意見を言う。					
疑問2. ビシアスの友人デモンは「・・・おしおきの日までには、きつともどってまいります。」とビシアスの罪を認めたように、王様には言っているが、心の中では					
③デモンは友だちとしてビシアスが本当に悪いことをしたと思っているのだろうか？					
④デモンは友だちならビシアスを助け出したいと思っているのではないだろうか？					
③、④ の間に対する意見を言う。					
疑問3. デモンの言葉「むろん、わたしが首を切られます。」「ビシアス君、なぜ、もう少しおくれなかったのだ。ぼくは、君にかわりたかったのに・・・」					
⑤デモンが、自分の命と引き替えにしてビシアスを救おうとするこの言葉は不自然だと思わないか？それともそれは友情のあらわれだろうか？本当に友情があるならば・・・					
⑤ の間に対する意見を言う。					
さて、ここまでみんなでビシアスとデモンの心の中を覗いてみた。そして私はついに、この物語の隠された真実のストーリーに気づいた。それはビシアスとデモンの計画的な作戦だった。さて君たちはその真実のストーリーがわかるかな？					
2人の計画的な作戦について考える。			ヒントを示す。		
例 実はこの物語は、横暴な王様による無実の罪から解放を勝ち取るために二人が仕組んだ、命がけの一か八かの大芝居だった。巧みな言葉や、ぎりぎりにビシアスが戻ってくるような演出を通して、王の性格を利用し、釈放をねらった筋書きが見事成功！最後の場面は、二人の友情のハイタッチの場面が目につく。					
オープンエンドで終わる。					